

◇検証シートの作成について◇

- ・この検証シートを活用して、令和元年度『全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果の分析を行ってください。
- ・検証シートには、
『全体の概要』及び、男女別に『運動やスポーツについて』、
『ふだんの生活について』、『体育の授業について』、
『その他について』の以上4項目があります。
- ・作成方法については、分析に活用する特徴的な質問項目を選択し、『質問事項』の欄に番号と質問項目を入力してください。スポーツ庁より学校あて送付された、令和元年度『全国体力・運動能力、運動習慣等調査』結果データよりデータをコピーし、項目ごとのシートに貼り付けグラフを作成してください。
- ・各項目のシートについては、あらかじめ右のページのとおりにデータが反映するようにグラフを設定しています。右ページのデータを貼り付ける表が『余る』または、『足りない』場合は、コピーしたデータをそのまま貼り付けて回答の項目を入力し、あらためてグラフの方でデータを選択し反映させてください。
- ・グラフ作成後、各項目ごとにグラフから読み取れる特徴を『成果と課題』『今後の取組』にまとめてください。
- ・各項目のシートには印刷範囲を設定しています。ページが増える場合はあらためて印刷範囲の設定をしてください。
- ・全体の概要を学校のホームページで公表することにより、「体力づくりアクションプラン」の提出といたします。

令和元年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」結果検証シート

全体の概要

大阪市立長橋

小学校

児童数

32

平均値

5年生	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20m シャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール 投げ	体力合計点
男子	14.33	20.27	35.33	38.93	50.60	8.99	165.07	24.80	55.07
大阪市	16.40	19.40	32.70	39.96	48.15	9.41	149.30	21.44	52.53
全国	16.37	19.80	33.24	41.74	50.32	9.42	151.45	21.61	53.61
女子	13.82	13.71	35.29	33.47	29.29	10.04	142.12	14.00	48.12
大阪市	16.15	18.51	37.54	38.38	38.97	9.65	142.68	13.31	54.47
全国	16.09	18.95	37.62	40.14	40.79	9.64	145.68	13.61	55.59

結果の概要

体力合計点は、男子は全国平均と比べると約1.5ポイント上回り、女子は約7.5ポイント下回った。運動の種目別に見ていくと、男子は握力、反復横とび以外は、すべての種目で全国平均を上回り、女子もソフトボール投げは上回ったが、それ以外の種目では全国平均を下回った。

今年度の調査結果からは、男子は全般的に結果が全国平均を上回り、運動、体力面では結果が良かったと言える。握力、反復横とびが平均を下回っており、特に敏捷性について課題を残した。女子は全体的に結果が低かった。女子については、1週間の総運動時間を0分と回答した児童が29.4%と全国平均(4.7%)の約6.3倍もある。運動習慣を身につけさせる取り組みを今後も実施していく課題を残した。

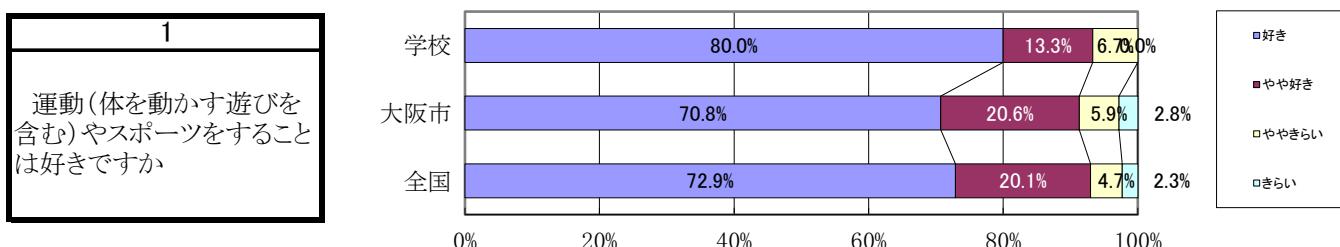
これまでの取組の成果と今後取り組むべき課題

今年度も、学期に1回程度、体力向上推進週間を設け、運動の楽しさを味わわせ、自身の体力に興味・関心をもつとともに進んで体力づくりに取り組ませることを行った。また、がんばりカードの活用を積極的に行なった。目標を立てて運動し自己の運動能力・体力の向上を視覚的に実感できるようにした。その結果、体力テストのほとんどの種目で昨年度より記録が伸びており、本校のこれまで課題にしてきた走力、跳躍力、持久力にも効果が見られるようになった。

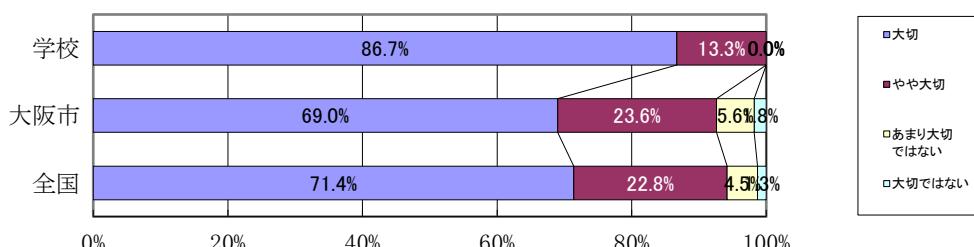
今後もトップアスリート派遣を通じ、運動の質を高めるために専門的なトレーニング方法や身につけたい能力にターゲットを絞った運動を取り入れることも視野に入れ、実践を重ねたい。児童のやる気を引き出す体育授業のさらなる工夫や日常的に運動に親しみがもてるような外遊びの工夫、室内での運動環境の充実に取り組んでいきたい。

運動やスポーツについて（男子）

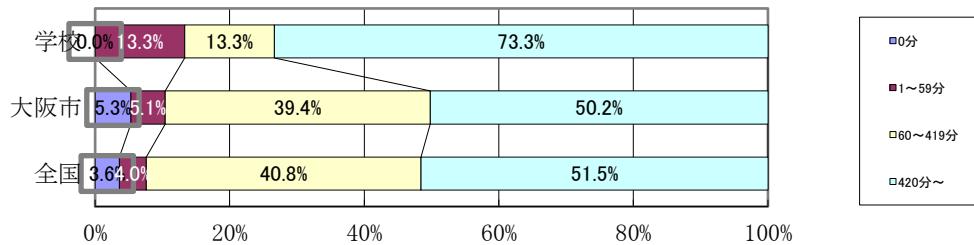
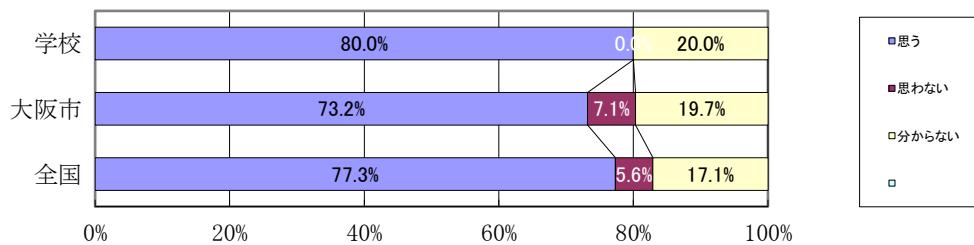
質問番号 質問事項



3



4



成果と課題

今年度も学期に1回程度の体力向上に関する取り組みを設けて、自身の体力に興味・関心をもち、運動の楽しさを味わうことができるようにしてきた。その結果、運動やスポーツについて肯定的なイメージは全国平均と差がない。休み時間など、運動場で元気に遊ぶ児童が多くいる一方、運動量においては個人差が大きく、運動に対し自信がなかったり、運動経験が少なかつたりすることで消極的な児童もいることが課題である。

今後の取組

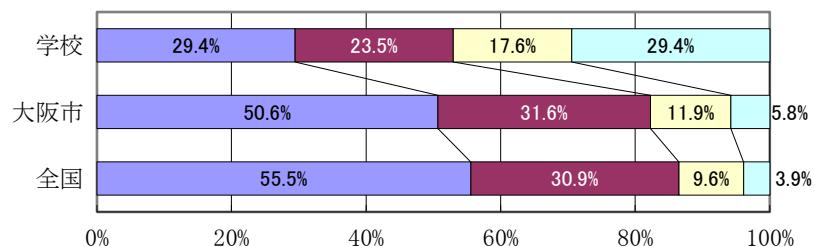
運動に対して苦手意識の強い児童は、継続した積極的な声かけが必要である。普段の体育の授業はもちろん、学校全体の取り組みなどで運動に親しみ、苦手なことにもチャレンジできるような場の設定を考えていく必要がある。

運動やスポーツについて（女子）

質問番号	質問事項
------	------

1

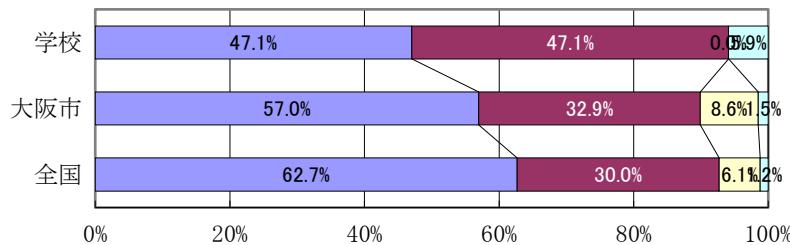
運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか。



- 好き
- やや好き
- やややきらい
- きらい

3

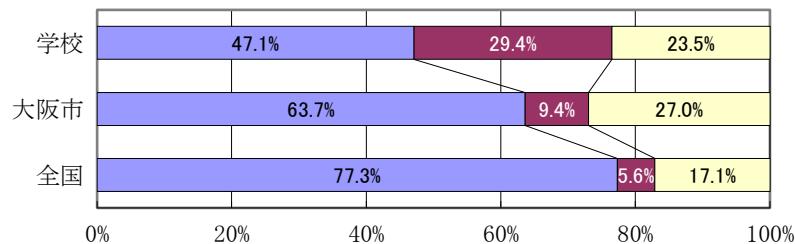
あなたにとって運動(体を動かす遊びをふくむ)やスポーツは大切なものですか。



- 大切
- やや大切
- あまり大切ではない
- 大切ではない

4

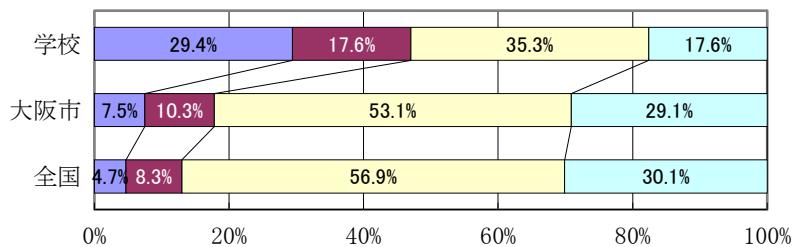
中学校で授業以外でも自
主的に運動したい。



- 思う
- 思わない
- 分からない
- その他

※

一週間の総運動時間



- 0分
- 1~59分
- 60~419分
- 420分以上

成果と課題

今年度も学期に1回程度の体力向上に関する取り組みを設けて、自身の体力に興味・関心をもち、運動の楽しさを味わうことができるようにしてきた。その結果、質問内容3にある「運動やスポーツは大切か」に対しては肯定的な意見が多くなった。しかし、運動やスポーツをすることに対して自信がなかったり、運動経験が少なかつたりすることで消極的な児童もいることが課題である。

今後の取組

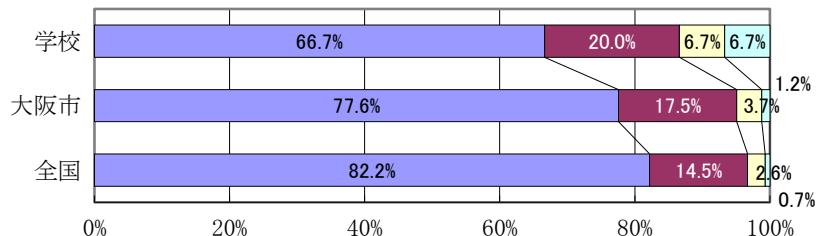
運動に対して苦手意識の強い児童は、継続した積極的な声かけが必要である。普段の体育の授業はもちろん、学校全体の取り組みなどで運動に親しみ、苦手なことにもチャレンジできるような場の設定を考えていく必要がある。

ふだんの生活について（男子）

質問番号	質問事項
------	------

6

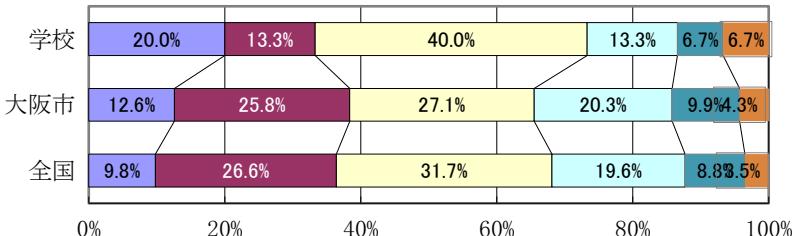
朝食は毎日食べますか(学校が休みの日もふくめます)



- 毎日食べる
- 食べない日もある
- 食べない日が多い
- 食べない

7

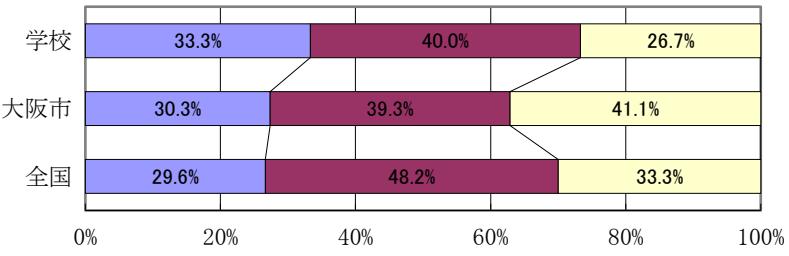
毎日どのくらいねていますか。



- 10時間以上
- 9時間以上10時間未満
- 8時間以上9時間未満
- 7時間以上8時間未満
- 6時間以上7時間未満
- 6時間未満

9

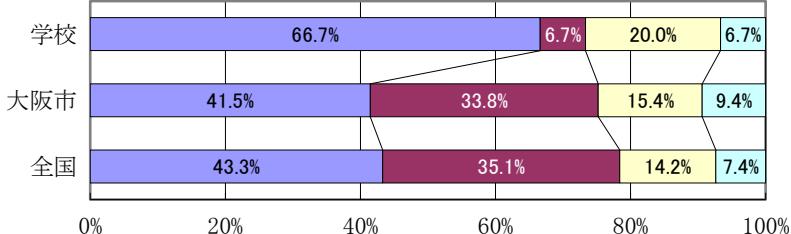
学校の運動部や地域のスポーツクラブに入っていますか。(スポーツ少年団をふくめます)当てはまるものすべて選んでください。



- 運動部
- 地域のスポーツクラブ
- 入っていない

10

放課後や学校が休みの日に、運動部や地域のスポーツクラブ以外で、運動(体を動かす遊びをふくむ)やスポーツをすることがありますか。



- よくある
- ときどきある
- あまりない
- まったくない

成果と課題

男子においては、放課後や学校が休みの日に運動やスポーツをよくしていると答える児童の割合は全国平均よりも高かった。学校の運動クラブや地域のスポーツクラブに入っている児童の割合も全国平均より高く、日常的に運動やスポーツに親しんでいることが結果から伺える。ただ、朝食を食べていない児童の割合や平均的な睡眠時間が6時間未満の児童の割合が全国平均よりも高く、基本的な生活習慣の確立が課題として挙げられる。

今後の取組

基本的な生活習慣の確立のために、心身の健康と運動能力には密接な関係があることを、保健体育や学校保健委員会などで周知、理解させていく必要がある。また、日常的に運動することの大切さを伝えるとともに、さらなる体力向上につながるような場の設定を工夫していきたい。

ふだんの生活について（女子）

質問番号	質問事項
------	------

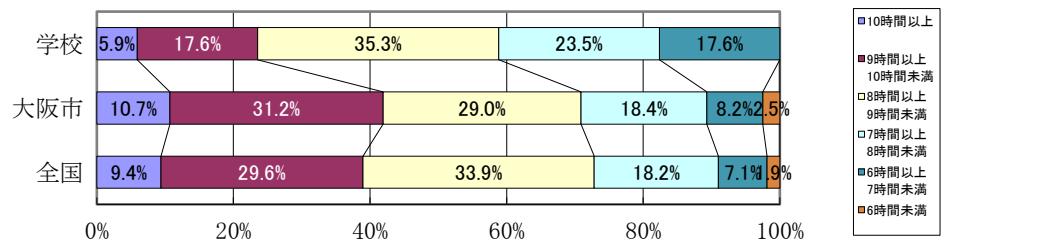
6

朝食は毎日食べますか(学校が休みの日もふくめます)



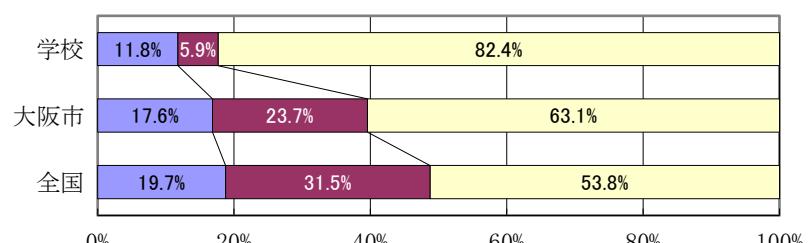
7

毎日どのくらいねていますか。



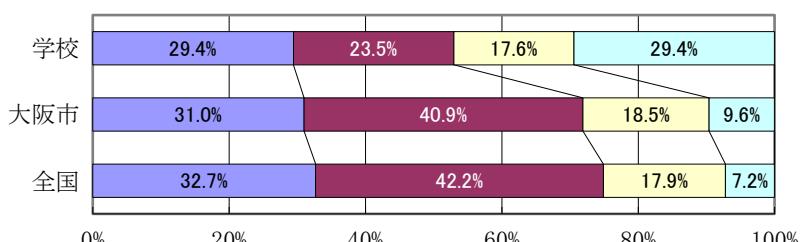
9

学校の運動部や地域のスポーツクラブに入っていますか。(スポーツ少年団をふくみます)当てはまるものすべて選んでください。



10

放課後や学校が休みの日に、運動部や地域のスポーツクラブ以外で、運動(体を動かす遊びをふくむ)やスポーツをすることがありますか。



成果と課題

男子とは対照的に、学校の運動クラブや地域のスポーツクラブに入っている児童の割合、日常的に運動やスポーツに親しむ児童の割合は極端に少なかった。朝食を食べない日があると答える児童の割合は全国平均に比べて多く、女子に関しても生活習慣の確立が課題として挙げられる。

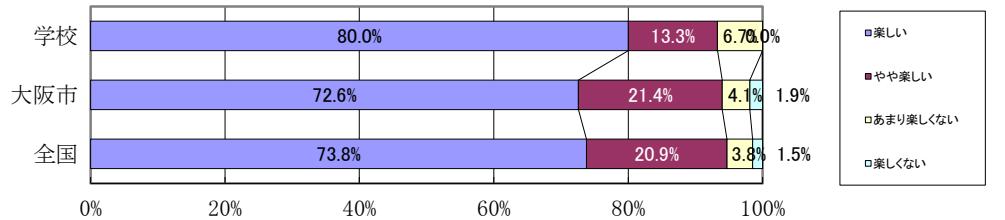
今後の取組

基本的な生活習慣の確立のために、心身の健康と運動能力には密接な関係があることを、保健体育や学校保健委員会などで周知、理解させていく必要がある。また、日常的に運動することの大切さを伝えるとともに、さらなる体力向上につながるような場の設定を工夫していきたい。

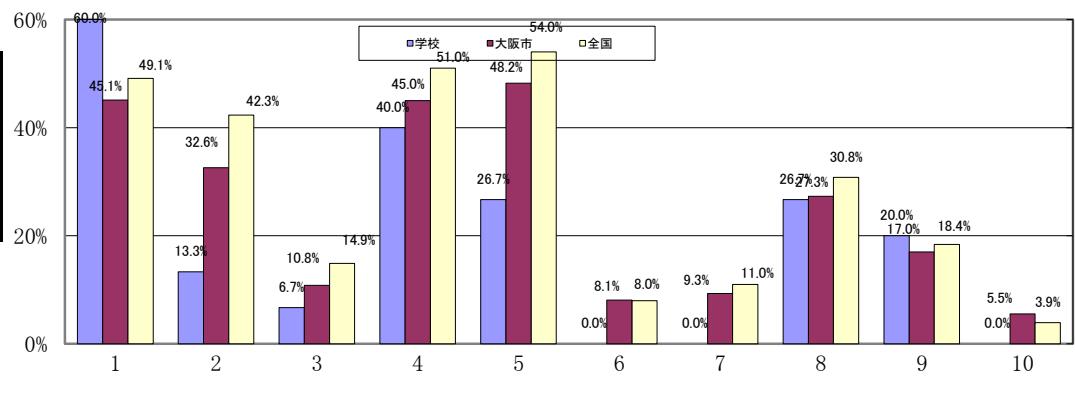
体育の授業について（男子）

質問番号	質問事項
------	------

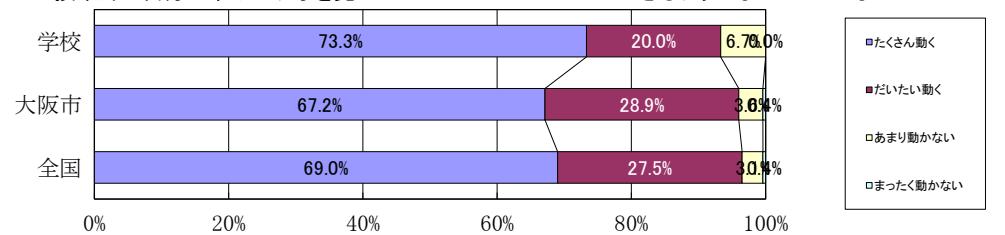
11
体育の授業は楽しいですか



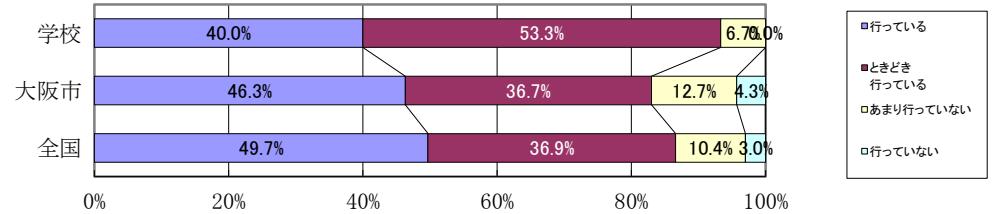
17
これまでの体育の授業で「できなかったことができるようになった」きっかけ、理由はどのようなものがありましたか



12
体育の授業では、たくさん動きますか。



15
体育の授業では、友達と助け合ったり、役割を果たすような活動を行っていますか。



成果と課題

体育の授業を楽しいと感じている児童の割合は全国平均よりも高く、授業の中での運動量も多いと感じている児童が多いことから、日々の学習のなかで一人ひとりがしっかりと体育の授業に取り組むことができていることが分かった。授業の中で助け合ったり、役割を果たすような活動を行っていると感じている児童も多く、引き続き児童主体の授業づくりに取り組んでいけるようすすめていきたい。

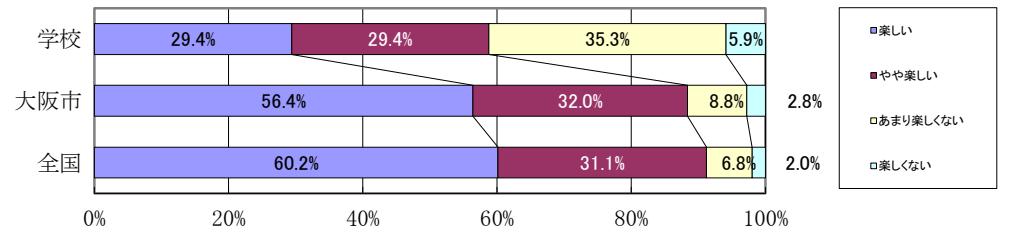
今後の取組

児童一人ひとりがめあてをしっかりとつかみ、個々の目標にむかって取り組むことができるよう引き続き場の設定や声かけをしていく必要がある。加えて、学習カードの使用やタブレット、デジタルカメラの活用を行い、自己の能力向上につなげができるように取り組んでいきたい。

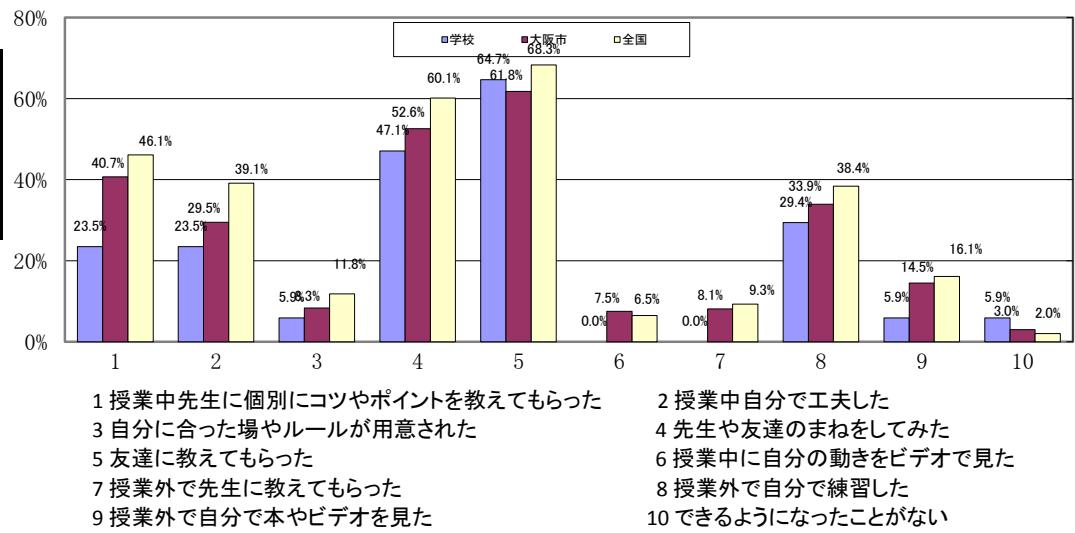
体育の授業について（女子）

質問番号	質問事項
------	------

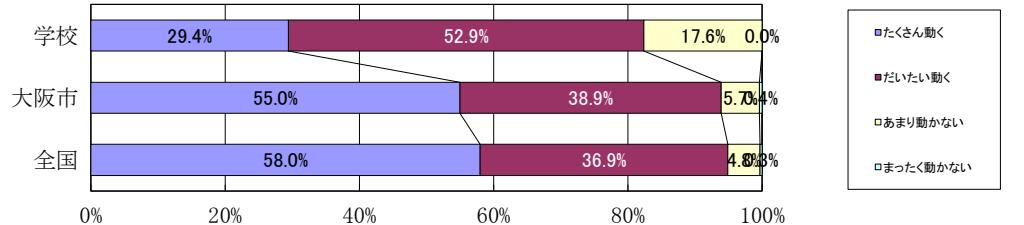
11
体育の授業は楽しいですか



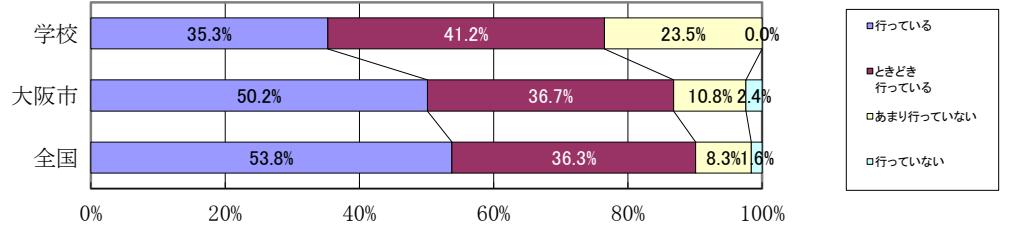
17
これまでの体育の授業で「できなかったことができるようになった」きっかけ、理由はどのようなものがありましたか



12
体育の授業では、たくさん動きますか。



15
体育の授業では、友達と助け合ったり、役割を果たすような活動を行っていますか。



成果と課題

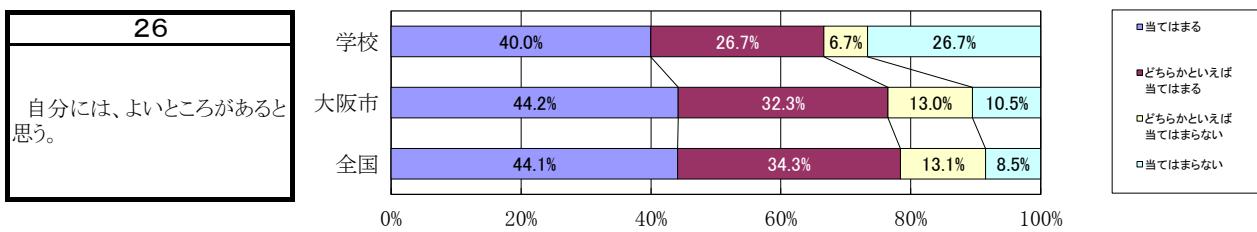
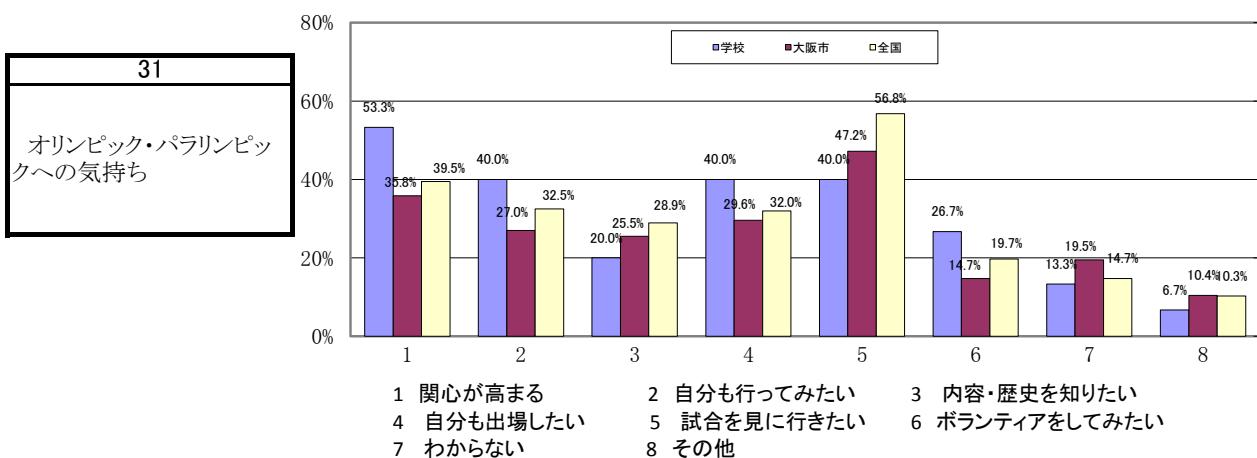
男子とは対照的に、体育の授業を楽しいと感じている児童の割合は低く、授業の中で運動に対する苦手意識を克服できなかったと考えられる。また、運動量も少ないと感じている児童も多いことから、一人ひとりの運動量に差があることが分かった。授業の中で助け合い、役割を果たすような活動を行っている児童は一定数いるので、児童同士での主体的な授業づくりをすすめていくことで体育の授業を楽しいと感じる児童の割合を増やしていきたい。

今後の取組

児童一人ひとりがめあてをしっかりとつかみ、個々の目標にむかって取り組むことができるよう引き続き場の設定や声かけをしていく必要がある。加えて、学習カードの使用やタブレット、デジタルカメラの活用を行い、自己の能力向上につなげができるように取り組んでいきたい。

その他（男子）

質問番号	質問事項
------	------



成果と課題

オリンピックやパラリンピックに対する気持ちについては、「関心が高まる」と答える児童の割合が最も多く、運動やスポーツに興味・関心が高い傾向にある。自分にはよいところがないと答える児童の割合は全国平均の3倍以上となったことから、運動やスポーツを通じて児童の自己肯定感を高めるような取り組みを、今後もすすめていく必要がある。

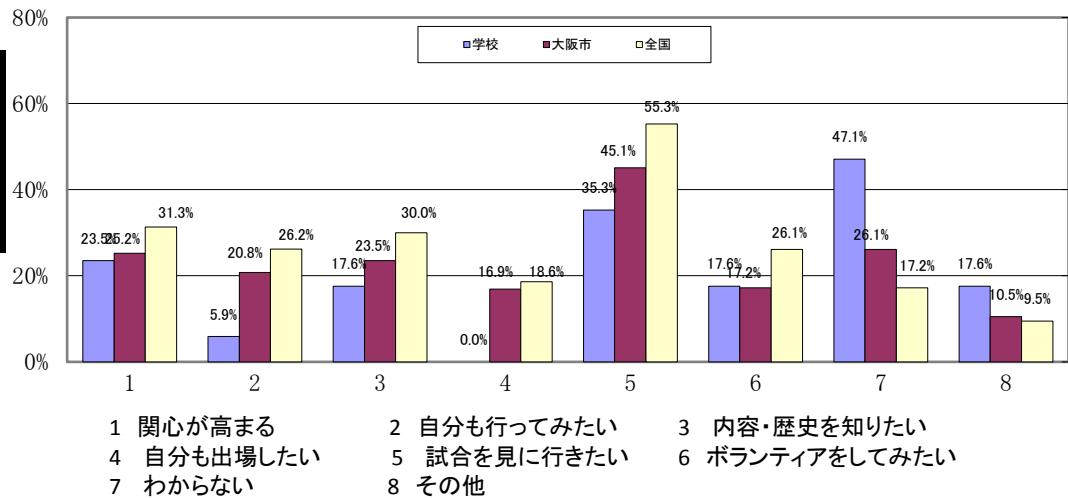
今後の取組

トップアスリートやプロ選手とふれあう機会を積極的に設け、児童が夢をもって自身の人生や将来の可能性を見つめたり、自己肯定感を高めたりすることができるような取り組みを実践していきたい。また、児童が個々に目標を定め、達成する喜びを感じることができるような学習内容や学習カードを取り入れていきたい。

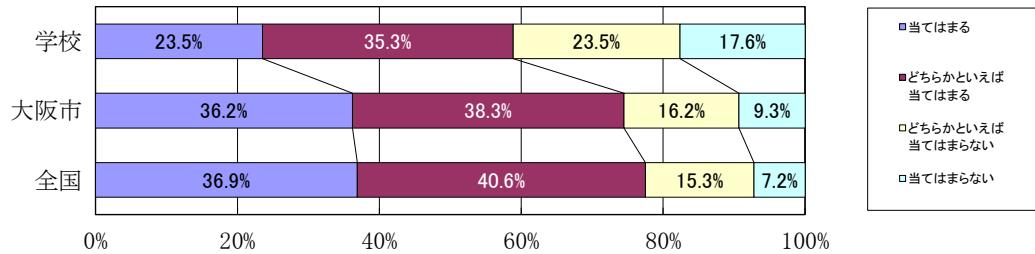
その他（女子）

質問番号 質問事項

31
オリンピック・パラリンピックへの気持ち



26
自分には、よいところがあると思う。



成果と課題

オリンピックやパラリンピックに対する気持ちについては、「わからない」と答えた児童の割合が最も多く、関心が男子に比べると薄いことが明らかになった。また、自分にはよいところがないと回答している児童の割合が多いことから、児童の自己肯定感を高めるような取り組みを、今後もすすめていく必要がある。

今後の取組

トップアスリートやプロ選手とふれあう機会を積極的に設け、児童が夢をもって自身の人生や将来の可能性を見つめたり、自己肯定感を高めたりすることができるような取り組みを実践していきたい。また、児童が個々に目標を定め、達成する喜びを感じることができるような学習内容や学習カードを取り入れていきたい。